

生等は民衆として現に依然として困苦し、依然として艱
淡し、依然として不安に襲はれ、依然として飢餓に面し
て居ります。震災に依つて與へられた困苦艱淡は、
現在までの配給又は労働政策では、毫も緩和されて居な
いのではありません。況んや之を以てして將來の復興もしく
は発展に資するの策たるを得しめ得るでしょうか、生等が疑
念なきを得ないものであります。生等の推測では、凡そ
無産労働庶民にして、心富かに死を恐るる者は無いで
ありませう。生力の偉大さか、彼等に政行を躊躇せし
めて居るに過ぎませぬ。

官公吏員又は謂ゆる識者の間には、配給は遊惰を生ず
と唱ふる向きがあります。何と云ふ残酷な批評でありま
せう。凡そ自己の欲求を犠牲にして、國家を憂へ、富國
強兵を急に勤勉努力して来られたものに、労働庶民ほどの者
が他に在りませうか。今、不慮の災害に遭つて喰ふに食
ふく着るに衣なく、神も佛も彼等には只呪はしいばかり
の時、國家又は國家の資産持補給級は、彼等労働庶民に
一時の遊惰を食らしめて居らなものでせうか。
生等の見を慮ては、彼等は給與救護を受け在りして、
決して遊惰に流れるものではありませぬ。彼等は生来の
勤勉者であります。

七

震災対策、復興施設と云ふ、只その一事、一問題だけ
でも、まだ幾多の考究事項が含まれて居るであります
せう。そして首相閣下を始め閣員諸公、殊に後藤内相兼
復興總裁の如きは、現下此等の急にのみ、多大の苦心を